

那須の歴史
再発見!

那須町と 近現代の人々

vol.33



谷邨一佐 (1866-1961)

8月号は、那須で「草羊園」を営み、日本の細羊界発展に貢献した、谷邨一佐を紹介いたします。

谷邨一佐は、慶応2年に長州藩士の子として生まれ、谷邨家の隣は吉田松陰・林友幸の屋敷だったといえます。明治2年、両親に伴われ上京し、東京府第二中学校に入学すると同級生に山田美妙、二年下級に尾崎紅葉がいました。明治19年に渡米し、同21年にエール大学で法律・経済・生物学などを学び同24年に帰国しました。

明治42年、農商務省より「畜産経済調査」の嘱託を受け再び渡米すると、かねてより興味を抱いていた細羊や牧草栽培についてコーネル大学で学び大正元年に帰国しました。大正4年に陸軍第一師団経理部嘱託技師として習志野演習

場(千葉県)などで牧草栽培に取り組んでいましたが、同6年に那須村松子の那須街道西側の高久御料地(約200ha)を借り受け「那須草羊園(谷村牧場)」を開き、洋風牧舎を構え、牧羊・牧草を試みました。牧場の開設には、矢板武、植竹三四郎(西那須野・黒磯・黒田原で運送店を経営、浅川敏靖(陸軍中将)、道家斉(農商務省官僚)などが後見・顧問を務めたといわれています。

当時北那須地区では、豊浦農場(毛利牧場)や千本松農場(松方農場)でさかんに細羊飼育が行われており、大正8年には松方正義が「草羊園」を訪れ、羊の毛刈りを見学しています。谷邨が那須で事業を始めたこともあり、那須郡役所からは奨励金が交付されたり、黒磯町や近隣村を中心に那須細羊協会が発足するなど、北那須地域での細羊飼育事業が拡大していきました。

大正9年時点で谷邨の牧場には、約100頭の細羊、各10頭ほどの馬や乳牛がいたといえます。

谷邨の那須での足跡は、現

在は見る影もなくなっています。松子地区には、谷邨が大正時代に建てた「羊塚碑」があるとされています。谷邨に関する資料や言い伝え、「羊塚碑」の場所などを知っている方がいらっしゃいましたらご連絡ください。

(写真は「とうら地区の歴史」、谷村一佐『奎普龍將軍』国立国会図書館デジタルコレクションより転載)

▼問合せ 那須歴史探訪館
☎74・7007



谷邨が建立した「羊塚碑」

かつこう



町内の小中学校には教育活動指導助手が勤務し、児童生徒の授業補助や学校生活の支援等を行っています。また、教育相談員等が児童生徒や保護者の相談業務を行うなど充実した学校生活を送れるよう、さまざまな職種が活動しています。▼その中に英語活動指導助手(ALT)がいます。ALTは、活動の一つとして小中学校の夏休み

期間やクリスマスシーズンに町内の保育園を訪問しています。担任の先生と一緒に入ってきたALTを前にして、子どもたちは、少し緊張しているようです。大丈夫かなと不安を感じたのもつかの間、明るく笑顔で語りかけるALTに、子どもたちはあつという間に心を開き、笑顔を見せ始めました。ALTが果物を描いたカードを見せると、子どもたちは「はい」と手を挙げるより早く「チェリー!」「ピーチ!」と次々に答えていき

ます。また「ロック、シザース、ペーパー、1、2、3」の掛け声に合わせてじゃんけんをしたり、歌を歌ったりと、自然と元気な声が飛び交っていました▼幼い頃から遊びを通して英語に慣れ親しみ「英語って楽しい」という気持ちを育むことは、小学校や中学校、その先の学びにつながるものと考えます。「楽しい」から興味や関心を持ち、子どもたちの世界がどんどん広がっていくことを願います。(関連記事25ページ)

こんにちは

赤ちゃん



令和5年11月生まれ

なかむら

ゆあ

中村

優杏ちゃん

ゆあちゃんは...

食べるの大好き! ☆

「こんにちは赤ちゃん」コーナーの写真を随時募集しています。詳しくは企画政策課広報広聴係(☎72-6935)まで。

町の世帯と人口

(8月1日現在・住民基本台帳) () の数字は前月比

・世帯数 10,797 世帯 (+ 11)
・人口 23,788 人 (- 52)
男 11,876 人 (- 17)
女 11,912 人 (- 35)

出生 2 人 (- 5)
死亡 38 人 (+ 12)
転入 77 人 (+ 15)
転出 91 人 (+ 28)
その他 2 人減

広報那須がスマートフォンなどで読むことができます



マチイロ

